

茗溪学園中学校高等学校

平成21年度 個人課題研究発表会（2）

教務部長 田代 淳一

前回同様、2月に行われました個人課題研究発表会@筑波大学会館の生徒の発表内容の紹介、今回は私の「田代ゼミ」以外の生徒を紹介します。

榊原ゼミ

社会科学分野の「榊原ゼミ」。指導者の榊原里佳先生は茗溪の12回卒業生でもある、生徒にとっての“先輩先生”です。早稲田大学で吉村作治教授のもとエジプト考古学を学び、教授と一緒に砂漠で発掘をしていた「本物」の世界史担当。今回の発表会ではゼミ員から3名が発表しました。

石飛 品帆 さん

日本の満州事変に対する、当時の各国の反応
～日本の国際連盟脱退は必然だったのか～

A会場・社会学歴史学関連分野、指導：榊原里佳先生

石飛品帆さんは、日本の国際連盟脱退の際に、本当に列強が日本に脱退を迫ったのかという点に疑問を持ち、教科書に記されているのとは違った視点、当時の世論を直接調査するという手法で考察しました。まずはちょうど出版されたリットン調査団の報告書の全文訳を丁寧に読み込み、“柳条湖事件が日本によって計画実行されたとする点”および“満州国は

日本が組織し建国後も日本の管理下にあること”以外は日本に對しかなり好意的な内容であることや、日本の満州における特殊な立場を理解しなければこの問題を解決できないとしている点に注目、さらにイギリスの新聞 Times 誌の1931年～33年の記事を読覧し、例えば柳条湖事件については関東軍が忍耐を強いられていたことなど日本に対して理解を示す記事を多数発見しました。これらの点から、石飛さんはイギリスなどの列強の世論は必ずしも日本を追いつめるものではなかったと推測、日本の脱退は松岡洋右主席全権たち日本側の恣意的な行為であったと考察しました。

金子 大地 君

IMF 設立目的と今後の期待
～ケインズ理論を通して～

E会場・経済学関連分野、指導：榊原里佳先生

高校入学帰国生でもある金子大地君は、将来国際経済・国際金融の場で活動したいと考え、IMFの役割を深く理解することを目的に研究しました。そのために初代総裁のケインズの経済理論を勉強、ケインズの考え方に4段階の変化を見つけました。IMF設立のために提出されたケインズ案に対し、実際に採用されたホワイト案（最終草案）ではケインズのバンコールによる金の非貨幣化は否定され、金・ドル為替本位制による固定相場制が盛り込まれ、ケインズにとっては誤算であったと推測しました。しかしその後、二度の改正を経てフロート制、変動相場制の承認と金本位制の廃止というケインズ理論に近いものに変化してきていると分析しました。

岩澤 有沙美 さん

ルネサンス期の宗教画及び ダンテ「神曲（地獄編）」から 当時の天国と地獄を考える

E会場・歴史学芸術学関連分野、指導：榊原里佳先生

岩澤有沙美さんはオランダにホームステイをし、たくさんの博物館や美術館を訪問したときから宗教画に興味を持ち、今回



茗溪学園個人課題研究発表会（筑波大学にて）